

● 平成20年度の歩み ●

《にっしん》の20年度は、前年度における預金の増加率(10.6%)全国信用金庫第1位、増加額(594億円)同第5位、貸出の増加率(7.1%)同第5位、増加額(201億円)同第9位という大変好調な業容の拡大を受けて始まりました。

20年度の主なできごとは次のとおりです。

- 04.01 入庫式 (総合職19名、一般職25名)
年金予約サービス開始
スーパー定期「年金Jr.」取扱開始
- 16 第36期リフレッシュサロン開講 全6回
- 18 新入職員入庫記念植樹 三木ホースランドパーク(18日)、明石市石ヶ谷公園(22日)、神戸国際会館前スポンサー花壇(25日)
- 05.13 環境委員会設置
- 19 しんきん携帯電子マネーチャージサービス取扱開始
- 20 総代懇談会 明石地区(20日)、三木地区(21日)、神戸地区(22日)他
- 06.02 クールビズ実施(～9.30)
一部解約機能付スーパー定期「タコちゃん・1年生 にゅうどうくも」取扱開始
- 13 信用金庫の日
- 24 第33期通常総代会開催 報道関係者に初公開
- 07.01 「がん保険」の取扱開始
ビジュアルブックス第10刊「地名でたどる小さな歴史Ⅱ」発刊
- 09 防犯訓練実施(兵庫支店9日、三木支店23日、本店営業部24日)
- 19 土曜預金営業実施(14店舗)
- 08.01 デビットカード取引利用限度額の引下げ
- 09.01 年金受給者への粗品プレゼント引換開始
- 18 第8期「にっしん経営塾」開講 全4回
- 10.01 一部解約機能付スーパー定期「タコちゃん・1年生 アッ!おにぎりべんとう」取扱開始
ドライバー無事故・無違反運動「チャレンジ100」に参加
- 22 第37期リフレッシュサロン開講 全6回
- 11.04 個人向けインターネットバンキング利用限度額の引下げ
- 06 緊急時対応計画訓練を実施
- 11 お客様ご優待国内旅行出発 全9コース
- 14 総代懇談会 明石地区(14日)、三木地区(18日)、神戸地区(19日)他
- 25 総預金6,500億円突破
- 12.02 店舗外ATM明石サティ出張所リニューアルオープン
- 11 第9期「にっしん経営塾」開講 全4回
- 20 土曜預金営業実施(全店)
- 01.04 新春「タコちゃんぬり絵大会」作品募集
- 07 新春吉本お笑いバラエティショーご優待
- 19 ATMコーナー営業時間全店統一(量販店内のATMを除く)
- 23 中小企業経営者のための事業承継セミナー開催
- 02.23 一部解約機能付スーパー定期「タコちゃん・1年生 なのはなばたけ」及び「タコちゃん・3年生 とおくとぼさう」取扱開始
- 03.02 積立定期預金「タコちゃん・大きなあれ(新バージョン)」取扱開始
その他、年金無料相談会(毎月5～6ヶ店)や、にっしん・さんよう平日ウォーク(年間10回)を実施

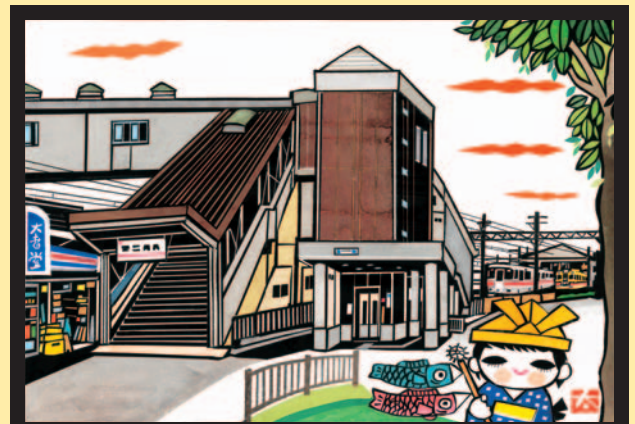
平成21年度も、役職員元気いっぱい業務に取り組んでまいります。

We will make a fresh step everyday.

〈にっしん〉 ミニガイド

H21.5

最新の決算から




山陽電車 東二見駅

彫画:伊藤 太一

 **日新信用金庫**

〒673-0892 明石市本町2-3-20

もしもしコール イコー ニッシンバンク
 **0120-15-2489**

(受付時間 平日午前9時から午後5時まで)

FAX 078-912-4589

<http://www.nisshin-shinkin.co.jp/>

平成21年3月期は、税引後で10億5千9百万円の当期損失となりました。 赤字決算となりましたことを深くお詫び申し上げます。

まず、この直接の原因となった不良債権と株式について説明します。

〈不良債権〉

不良債権処理費用(債権償却額、債権売却損、貸倒引当金繰入額等の合計)はここ3年10億円内で推移してきましたが、平成21年度は26億円強となりました。

(百万円)

	H17.3末	H18.3末	H19.3末	H20.3末	H21.3末
不良債権処理費用 (与信費用)	1,676	703	889	649	2,675

これは特に年度後半において経営悪化先が増加したためです。背景にきびしい経済情勢がありますが、経営が悪化した企業にはそれぞれ固有の事情があったことも事実です。それ以上に、当庫が経営悪化にもっと早く気がついて手を打つべきであったと反省しております。

融資先の経営支援態勢をこの4月抜本的に見直しました。経験からできるだけ多くのことを学びつつ、さらに果敢な融資営業を目指してまいります。

〈株式〉

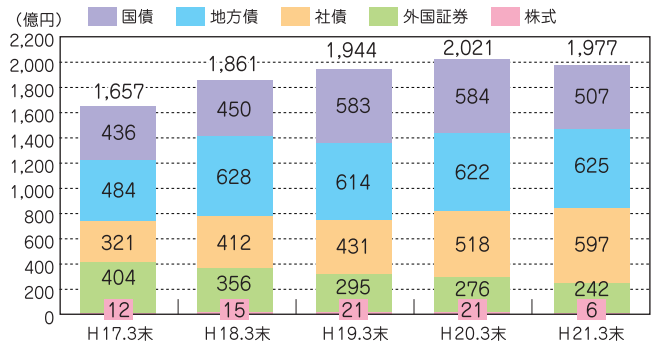
有価証券(債券と株式)運用は、債券(国債、社債等)運用が主体で、株式(株式型投資信託を含む。以下同じ。)はわずかです。

株式投資については、一般的に好景気のときは株価や金利は上昇して債券価格は下落することから、金利が上昇して債券に評価損が発生する場合にそなえて、インデックス投信(日経225投信等)を中心に少しずつ買ってきました。しかし、株価の急落からこれらに大きな評価損が発生しました。そこで、年度末にこれら売却し6億1千9百万円の損失を計上しました。

この結果

平成20年度末における株式保有額は6億3千4百万円(簿価)です。そこから県、市等の中小企業育成ファンドへの投資や関係会社の株式など政策目的で保有しているものを除くと18銘柄3億4千1百万円で、平成21年度に入りさらに売却を進めた結果、平成21年4月末には11銘柄2億5千1百万円に縮小しています。株式については、一旦リセットしました。

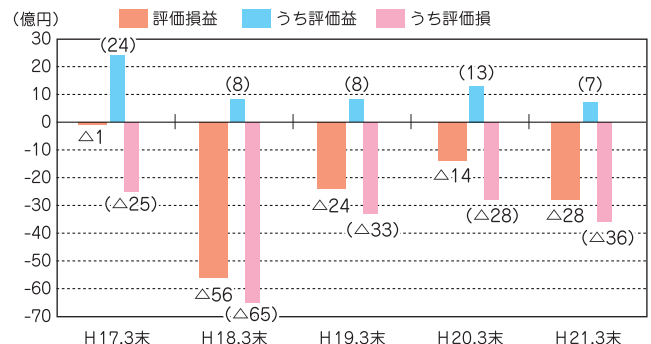
〈有価証券種類別残高(時価額)〉



また、有価証券全体の評価損は下のグラフのとおり十分管理可能な範囲に収まっています。

当庫の場合、有価証券はすべて「その他の目的」で、保有しているため、有価証券評価損はこれ以外にはありません。

〈有価証券全体の評価損益の推移〉

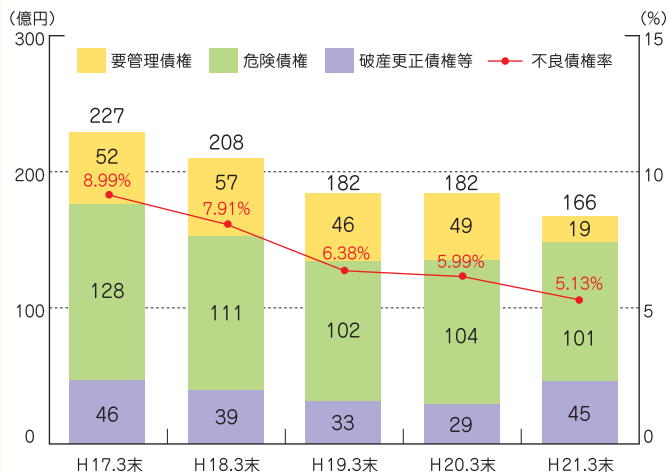


この結果

不良債権は順調に減少しています

平成20年度多額の不良債権処理費用を投入した結果、年度末の不良債権額及び不良債権比率は順調に減少しました。

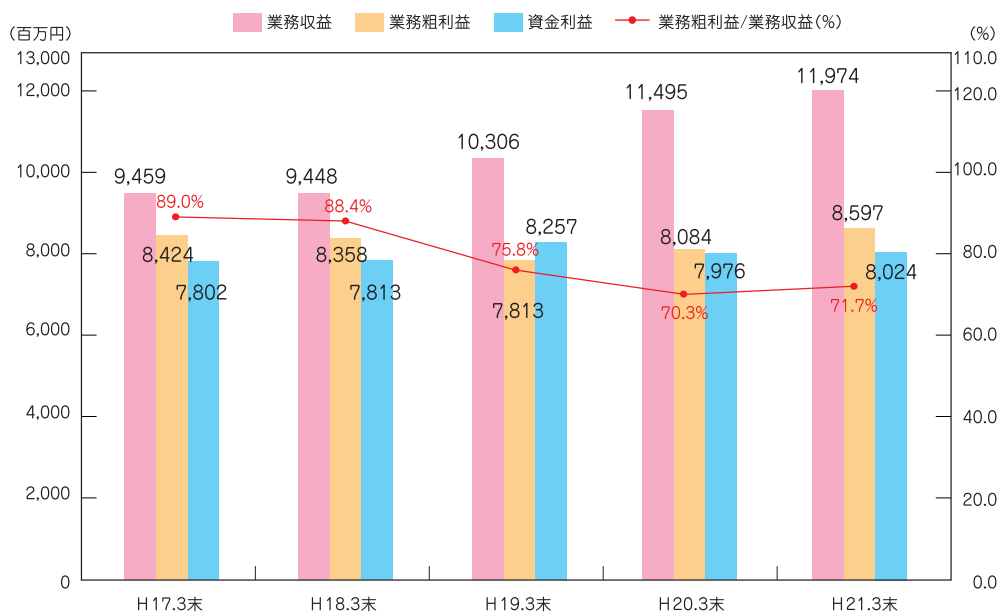
平成21年度は身軽な出発となりました。課題は、新たな不良債権の発生を防ぐことです。



破産更正債権等が増加しています。しかし、これについては担保物件の処理等の事務作業が残されているものの、会計上は個別貸倒引当金の計上により損失の全額を処理し終えています。

〈 業務収益、業務粗利益、資金利益 〉

増収ですが、利益率は低下しています。



業務収益(一般企業の売上高)は3年連続で順調に増加しています。要因は貸出の増加です。

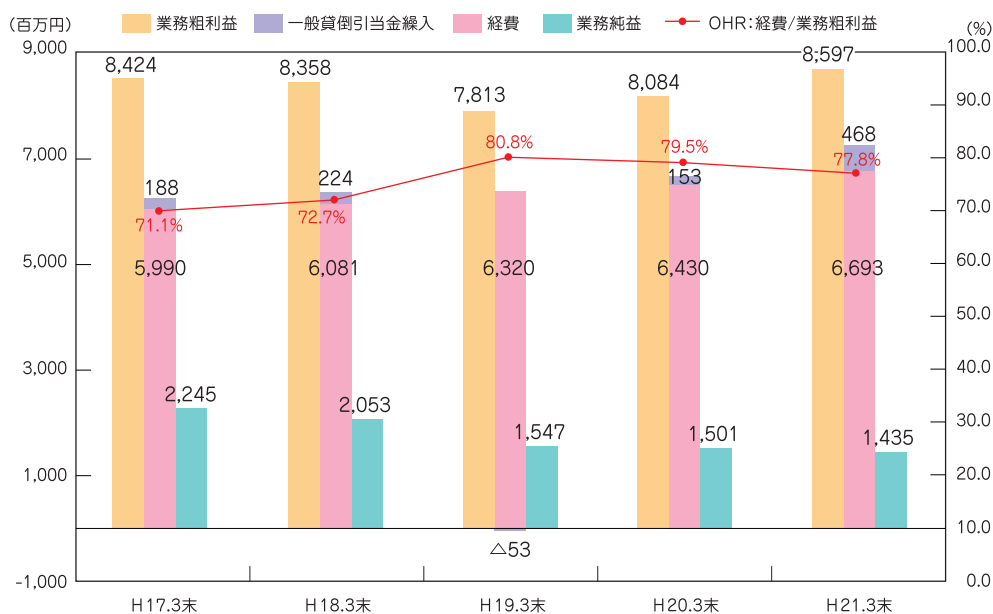
業務粗利益(一般企業の売上総利益:売上高-売上原価)は2年連続で増加しています。

しかし利益率(業務粗利益/業務収益)は3年前に比べ低下しています。また、業容が大幅に拡大しているにもかかわらず資金利益(貸出と余資運用から発生する利益-預金支払利息)は伸び悩んでいます。

これは、貸出金利回りが20年度は一転して低下に向かうなかで、預金金利が急速に上昇して利鞘が大幅に縮小してきているためです。当庫の場合は、できるだけ高い金利で預かりできるだけ低い金利で貸そうと努めていることが利鞘の縮小を加速しています。

〈 業務粗利益 - (一般貸倒引当金繰入 + 経費) = 業務純益 〉

業務純益は低下を続けています。



経費が毎年少しずつ増加しています。また、平成20年度は自己査定上の正常先等から一気に業績を悪化させる先が多かったことから一般貸倒引当金が増加しました。

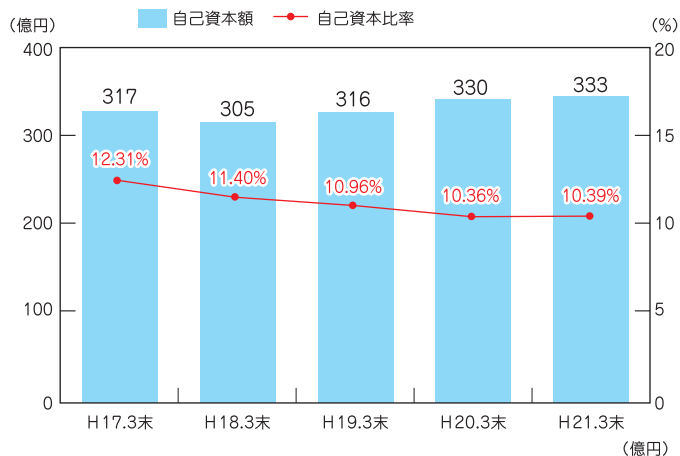
この結果、業務純益(一般企業の営業利益)の低下を平成20年度も食い止めることができませんでした。

業務純益から個別貸倒引当金、株式売却損などを加味して当期純利益が計算されます。平成20年度はこれらの臨時費用が多額となり当期純損失を計上することとなりました。この直接の原因は、不良債権と株式ですが、背景には業務純益の低下という中期的な問題があります。

平成21年度を展望しますと、金利の低下から預金支払利息は減少が予想されますが、他方で貸出金利も昨年末の短期プライムレート引下げにより低下することが見込まれます。

収益力の回復のためには、①貸出金の量的拡大と預貸率の向上 ②経費の削減 ③新たな不良債権発生防止が必須であると考えています。

〈自己資本の額と比率〉



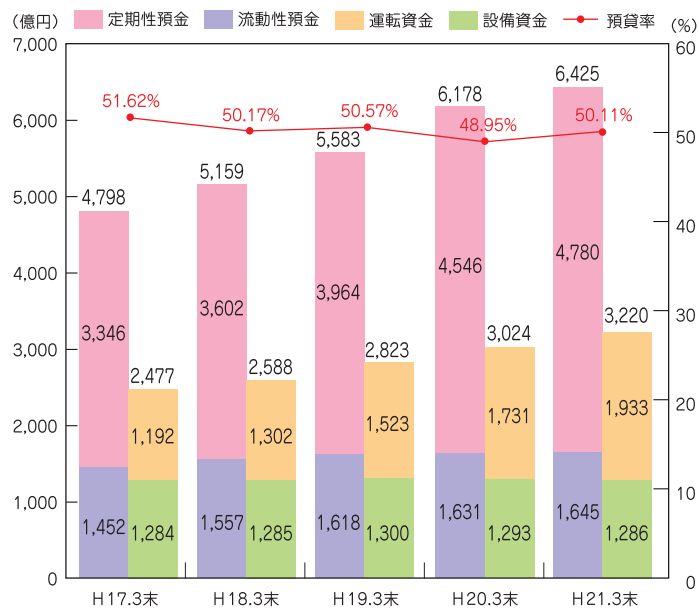
	H17.3末	H18.3末	H19.3末	H20.3末	H21.3末
繰延税金資産	18	32	28	23	26

自己資本比率が中期的に見て低下傾向にあるのは、業容の急拡大(資産の増加)に対して利益の積上げ(自己資本の増加)が追いついていないためです。

業容の拡大を巡航速度に落とすとともに収益力の回復に努めなければなりません。

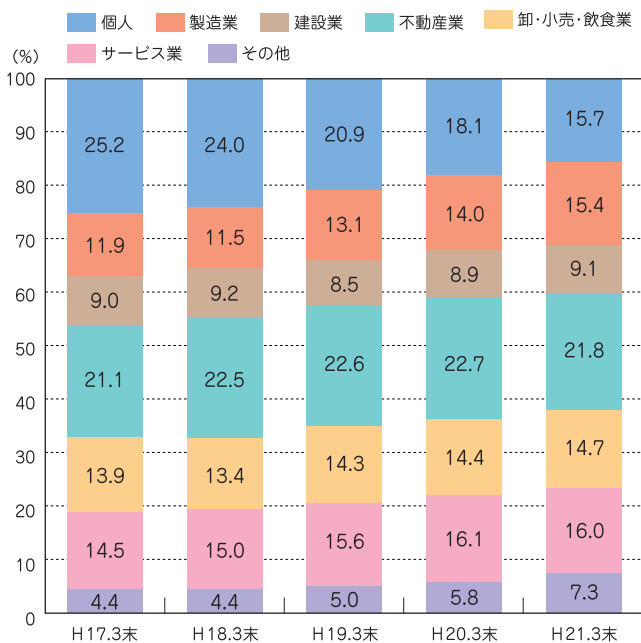
〈預金と貸出〉

預金も貸出も、引続きたいへん順調に伸びています。



〈貸出金の業種別構成比の5年間の推移〉

個人(住宅ローン)が減って製造業が増えています。



〈有価証券の償還までの期間別残高〉

市場リスクが大きくなるように、期間10年を超える運用をさせています。

